



2014年(平成26年) 2月3日 月曜日

日経 産業新聞

鉄は空気や水にふれて、また時間の経過によってサビが発生し、どんどん痩せ細って来て、生まれた時のような綺麗な肌ではなくなります。これが最大の欠点なのです。18世紀に起こった、イギリスの産業革命では蒸気機関が発明され、紡織機が発明されました。それらの機械は鉱山業や繊維産業等に取り入れられ、革命の推進役になりました。そして、鉄の需要は急速に増加しました。そんな状況の中、も

鉄のふしぎ? 博物館

■18

サビナイ東郷ハガネ

『デリーの鉄柱』(ウキペディアより借用)



つと強い鉄、サビない鉄は無いのだろうか?—こんなことを大勢の技術者や科学者が考えました。18世紀にインドを植民地化すると、古代からのインドの鉄鋼技術に関心が高まりました。一つは『デリーの鉄柱』です。

これはクワト・ウル・イスラム寺院の境内にあって、クトゥプの円柱といわれています。この地上6メートルの鉄柱は驚異的な耐候性を持っています。もう一つは、十字軍(11—13世紀)の騎士達が持ち帰った強靱でサビにくいダマスカスの刀剣です。この刀剣はインドで作られたウーツ鋼(高炭素鋼)が、ペルシヤ商人によ

1913年、小銃や大



街角で見つけたステンレス鋼のオブジェ(名古屋市中)

衣川製鎖工業・衣川良介社長

画像はカラーと交換しています。

日刊産業新聞 14・2・3

留用の強い素材の開発に実験を繰り返していた、ハリー・フレアリーはその出来損ないの素材をスクラップ置き場に捨てました。しばらくしてスクラップの山にサビていない鉄片を発見、それはクロムを13%以上含んだ合金でした。現在も使われている刃物用のステンレス鋼(SUS410)の誕生です。それまでの常識ではクロムを添加するとサビやすい鉄になると考えられていたのです。イギリスで発明されたステンレス鋼は、その8年後、大正10年(1921年)、河合鋼鉄(株)によって輸入され、翌年から『サビナイ東郷ハガネ』と命名され販売されました。輸入から1年、新しい素材の用途開発と商品の製造には苦労がうかがえます。

フレアリーのステンレス鋼発明から100年

著、さらえ書房1990年

【参考図書】
▽河合鋼鉄111年のあゆみ(1983年)
▽ステンレス鋼発明史(鈴木隆志著、アグネ技術センター2000年)
▽鉄のはなし(雀部晶著、さらえ書房1990年)